



YMCA

月刊 The YMCA 付録

編集・発行 / 日本 YMCA 同盟 東京都新宿区本塩町7番地
大阪青年 発行：末岡祥弘 編集：大阪 YMCA 広報室
〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-5-6
TEL06-6441-0894 FAX06-6445-0297
URL: http://www.osakaymca.or.jp/
(年10回発行) 1947年10月27日 第3種郵便物認可

大阪青年

2007 May. 5

No. 595

大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をはくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。
- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人びとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み平和で公正な世界をめざします。

活動を共にする楽しさを味わおう

YMCA ボランティア

副総主事

石原 福造

大阪YMCAは将来展望「VISION 2010」で「ネットワーク型福祉社会(希望を持って共に生きる社会)」の実現に向かうことを明確にし、M b D(メンバーシップ・バイ・デザイン)によるリーダーシップの養成を進めようとしています。

一方、「社会福祉」から「福祉社会」へ。社会構造の変化に伴い、福祉の概念が変化してきています。今までの特定の課題を持った人を対象として集中的、継続的にサービスを行ってきた「社会福祉」の概念から、「すべての人を主体とし、一人ひとりが人間として自分の願う

「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています」

ローマの信徒への手紙 8章 28節



自己実現を達成する大きな力」として見直されてきています。日米のボランティアリズムの比較研究に現れたひとつの大きな特徴として、ボ

の場と機会があり、その運動体の中心は青年であり、またYMCAの持つている精神性は国際的な広がりの中、多くの人々の関わりにより活動を推進しています。また、ボランティア活動は、生活の一部として日常生活がより豊かになっていく、いわゆる「生活との共存」を味わうのが本来の姿としてあり、日本人の固い受け取り方とYMCAのもつ自由さとの差が感じられます。

YMCAのキャンプリー

ダー、委員、理事の方々、自分たちの行いをボランティアだと明確に意識している人は少ないのではないのでしょうか。

ボランティアとは一方向的な働きではなく、むしろ自分が啓発され、与えるよりも多くを得る場であり、「楽しい、喜びの関係」、「対等な関係」であると受け止められています。

YMCAに関わる多くの人たちが、その働きを通して、自分の経験による具体的な豊かなボランティア活動を体験することができる場を共に作りたいと願っています。

ランテニア活動をアメリカの青年はとも生活をする楽しさとしてとらえるのに対して、日本の青年は何かしら堅苦し、無償の奉仕、あるいは自己犠牲による奉仕であると、とらえています。YMCAでは多くのボランティア活動

地の塩

▼大阪YMCA創立125周年記念礼拝を5月26日に迎えるにあたり、大阪YMCA100年史を紐解いて見た

▼明治15年(1882年)創立当時の中心人物は、大阪の諸教会の牧師ならびに教会青年で、いずれも20代の若さであった。当時は明治維新から明治憲法成立にいたる自由民権運動が盛んな頃で、彼等はキリスト教の宣教を目指して、大阪の各地で宗教講演会や学術講演会を開催し、当時の反キリスト教的な妨害を乗り越えて、次第に組織を充実し、創立後僅か4年にして、当時の宣教師や外国人教師の仲介で、北米YMCA等の援助を得て、借入金や寄付金を基に現在の土佐堀に土地を入手し、わが国最初の土佐堀青年大会館を建堂している。その会館を拠点とした大阪のYMCA運動が現在に至るまで、絶えることなく継承され、最近では世界でも最大級のYMCA組織にまで発展したことは記憶に新しい

▼創立125周年を記念して、新しい企画が実施されようとしているが、短期的な記念行事に終わるのでなく、中長期的なプロジェクトを立ち上げることができないだろうか?例えば、次世代の指導者の育成や、創立当時、青年の働きに目をつけた北米YMCAが大阪に指導者を送り、財政的な援助を果たしたことを思い起こし、今度は大阪YMCAが、世界各地のYMCA運動の地域組織の萌芽を見出し、団塊世代の中から適当な指導者を送り出し、継続的に資金援助するようなプロジェクトの計画を期待したい。

(勝)